

【23_132思考系メルマガ】自分の後ろで誰がトレードを見てるのか？

〇〇さん

こんにちは、クロです。

「自分が利確したときに限って、そのあともっと値が伸びたりして悔しいんです」

「自分のポジションはヒゲ先でロスカットされたけど、そのあと目線通りに伸びて行くことが多い気がするんですが、どうしたらいいですか？」

こういった相談も日頃やり取りしていると多いのですが、このような質問を貰ったときに決まって返す質問があります。

『そのような動きが、これまで過去10回以上のトレードで何回ありましたか？』と。

なぜこんな逆質問をするのかというと、結論から言ってしまえば

そのように感じているのは『大体気のせい』であることがほとんどだからです。

どういうことなのか？そんなことどうやってわかるのか？というのを話していきます。

□

└─ ■ 自分の「記憶」をアテにするな、『記録』を観ろ

└──────────────────────────

トレード記録を付けていない人には『まず、日々のトレードの記録を付けて、本当にそんな動きばかりなのかを確認してみてください』

と伝えています。

すると、実はそのような動きをしていたトレードというのはそれほど多くなく、大抵は「自分の気のせい」だったりすることが多いのです。

▼参考ツイート▼

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1655023211212607488?s=20>

「でも実際トレードしていると、本当に後ろから見られているのか？と感じることが多いんです」と言う人もいます。

実際なぜそのように感じるのかにもちゃんと理由があります。

それは「そうなった時の印象だけが強く記憶に残ってしまうから」です。

サブタイトルにも書いたように、自分のトレードの結果一つ一つを正確に覚えている人などほとんどいません。

週に数回の頻度でデイトレをしている人であれば、自分の1週間(5営業日分)のトレードの通貨ペアとその結果を正確に覚えていられるでしょうか？

僕は自分の記憶にそこまで信頼ができない(笑)ので、その日のトレードの記録はその場で必ず付けるようにしています。

そして、可能ならその後の値動きはどうだったのかも、感想を交えながら記録しておく。

そんな記録を積み重ねていると、自分のトレードが後ろから観られている気がするというのが「そういうときもあるけど、大抵は気のせいだった」と気づけるはずです。

人の記憶というのはそれ位曖昧なもので、印象に残った成功体験や悔しい記憶は鮮明に残りがちです。

その記憶だけを頼りに自分の経験を振り返ってしまうから、「常に自分のトレードが後ろから見張られている」などという錯覚をしてしまっているだけなのです。

この話も、日々自分のトレードを記録しておくことの大事さを実感できる事例の一つと言えますね。